

1

解答解説のページへ

3 辺の長さが  $AB = 4$ ,  $BC = 3$ ,  $CA = 5$  である直角三角形  $ABC$  と、その内側にあつて 2 辺  $AB$  および  $AC$  に接する円  $O$  を考える。この円の半径を  $r$  とし、中心  $O$  から  $AB$  に引いた垂線と  $AB$  との交点を  $H$  とする。また、ベクトル  $\overrightarrow{AB}$ ,  $\overrightarrow{AC}$  と同じ向きで大きさが 1 のベクトルを、それぞれ  $\vec{u}$ ,  $\vec{v}$  とし、 $\overrightarrow{AH} = t\vec{u}$  ( $t > 0$ ) とする。次の問いに答えよ。

- (1) 直線  $AO$  と辺  $BC$  の交点を  $M$  とするとき、ベクトル  $\overrightarrow{AM}$  を  $\vec{u}$  と  $\vec{v}$  を用いて表せ。
- (2) ベクトル  $\vec{u}$ ,  $\vec{v}$  の内積  $\vec{u} \cdot \vec{v}$  を求め、ベクトル  $\overrightarrow{AO}$  と  $\overrightarrow{HO}$  を、それぞれ  $\vec{u}$ ,  $\vec{v}$  および  $t$  を用いて表せ。また、円  $O$  の半径  $r$  を  $t$  で表せ。
- (3) 円  $O$  が辺  $BC$  にも接するとき、その中心を  $I$  とする。すなわち、 $I$  は三角形  $ABC$  の内心である。そのときの  $t$  の値と、内接円  $I$  の半径を求めよ。
- (4) 円  $O$  と内接円  $I$  が共有点をもたないような  $t$  の範囲を求めよ。

2

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

- (1) 関係式  $a_1 = 1$ ,  $na_{n+1} - (n+1)a_n = 1$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) によって定義される数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めたい。  $b_n = \frac{a_n}{n}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とおいて数列  $\{b_n\}$  の一般項を求めることにより,  $a_n$  を求めよ。
- (2)  $x \neq 1$  のとき, 等比数列の和の公式  $\sum_{k=0}^{n-1} x^k = \frac{x^n - 1}{x - 1}$  の両辺を  $x$  で微分せよ。その結果を利用して,  $\sum_{k=1}^{n-1} kx^k$  を求めよ。
- (3)  $p \neq 1$  のとき, 関係式  $c_1 = 0$ ,  $\frac{pc_{n+1}}{n} - \frac{c_n}{n+1} = \frac{1}{n+1}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) によって定義される数列  $\{c_n\}$  の一般項を求めよ。

3

解答解説のページへ

円  $C_1 : x^2 + y^2 - 2\sqrt{3}x - 4y + 3 = 0$  と放物線  $C_2 : y = -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2\sqrt{3}}x + 1$  について,

次の問いに答えよ。

(1)  $C_1$  と座標軸との共有点, および  $C_2$  と座標軸との共有点の座標を求めよ。

(2) 連立不等式 
$$\begin{cases} x^2 + y^2 - 2\sqrt{3}x - 4y + 3 \leq 0 \\ y \leq -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2\sqrt{3}}x + 1 \end{cases}$$
 を満たす点  $(x, y)$  全体からなる領域を

$D$  とする。 $D$  の面積  $S$  を求めよ。

(3) 点  $(x, y)$  が領域  $D$  を動くとき,  $x + y$  の最大値を求めよ。

4

解答解説のページへ

曲線  $y = \log x$  の接線はつねにこの曲線の上側にあることを利用して、次の問いに答えよ。以下、 $k$  は自然数とする。

(1) 点  $A_k(k, 0)$  を通り  $x$  軸に垂直な直線と曲線  $y = \log x$  との交点を  $A_k'$  とし、 $A_k'$  におけるこの曲線の接線を  $l_k$  とする。また、 $k \geq 2$  のとき、 $B_k(k - \frac{1}{2}, 0)$ 、 $C_k(k + \frac{1}{2}, 0)$  を通り  $x$  軸に垂直な直線と接線  $l_k$  との交点をそれぞれ  $B_k'$ 、 $C_k'$  とする。四角形  $B_k C_k C_k' B_k'$  の面積を求めよ。

(2) 次の 2 つの値の大小を比較せよ。

(ア)  $\log k$  と  $\int_{k-\frac{1}{2}}^{k+\frac{1}{2}} \log x dx$  (ただし、 $k \geq 2$ )

(イ)  $\frac{\log k + \log(k+1)}{2}$  と  $\int_k^{k+1} \log x dx$  (ただし、 $k \geq 1$ )

(3)  $a_n = \log(n!) - \frac{1}{2} \log n$  とおくと、2 以上の自然数  $n$  について、次の不等式が成り立つことを示せ。

$$\int_{\frac{3}{2}}^n \log x dx < a_n < \int_1^n \log x dx$$

(4) 2 以上の自然数  $n$  について

$$U_n = \left(n + \frac{1}{2}\right) \log n - n + \frac{3}{2} \left(1 - \log \frac{3}{2}\right), \quad V_n = \left(n + \frac{1}{2}\right) \log n - n + 1$$

とおくとき、次の不等式を示せ。

$$U_n < \log(n!) < V_n$$

1

問題のページへ

- (1)  $\angle BAC$  の二等分線  $AM$  は、 $|\vec{u}| = |\vec{v}| = 1$  より、 $k$  を定数として、

$$\overrightarrow{AM} = k(\vec{u} + \vec{v}) = \frac{k}{4}\overrightarrow{AB} + \frac{k}{5}\overrightarrow{AC}$$

また、 $M$  は  $BC$  上の点なので、 $\frac{k}{4} + \frac{k}{5} = 1$ 、 $k = \frac{20}{9}$

$$\text{よって、}\overrightarrow{AM} = \frac{20}{9}(\vec{u} + \vec{v}) = \frac{20}{9}\vec{u} + \frac{20}{9}\vec{v}$$

- (2)  $\cos \angle BAC = \frac{4}{5}$  より、 $\vec{u} \cdot \vec{v} = 1 \times 1 \times \frac{4}{5} = \frac{4}{5}$

ここで、 $AO : AM = AH : AB = t : 4$  より、

$$\overrightarrow{AO} = \frac{t}{4}\overrightarrow{AM} = \frac{t}{4} \cdot \frac{20}{9}(\vec{u} + \vec{v}) = \frac{5}{9}t(\vec{u} + \vec{v}) \cdots \cdots (*)$$

また、 $\overrightarrow{HO} = \frac{5}{9}t(\vec{u} + \vec{v}) - t\vec{u} = -\frac{4}{9}t\vec{u} + \frac{5}{9}t\vec{v}$  から、

$$|\overrightarrow{HO}|^2 = \left(\frac{t}{9}\right)^2 | -4\vec{u} + 5\vec{v} |^2 = \left(\frac{t}{9}\right)^2 (16 - 40 \times \frac{4}{5} + 25) = \frac{t^2}{9}$$

すると、 $t > 0$  から、 $r = |\overrightarrow{HO}| = \sqrt{\frac{t^2}{9}} = \frac{t}{3}$

- (3) 内接円の半径を  $r$  とおくと、 $(3-r) + (4-r) = 5$  より、 $r = 1$  となる。

すると、(2) から、 $\frac{t}{3} = 1$  となり、 $t = 3$  である。

- (4) (\*) から、 $\overrightarrow{AI} = \frac{5}{9} \times 3(\vec{u} + \vec{v}) = \frac{5}{3}(\vec{u} + \vec{v})$  となり、 $\overrightarrow{OI} = \left(\frac{5}{3} - \frac{5}{9}t\right)(\vec{u} + \vec{v})$  より、

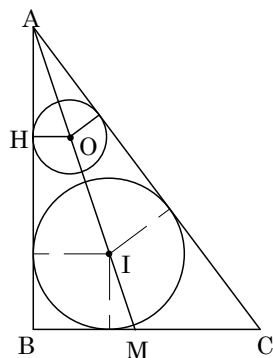
$$|\overrightarrow{OI}|^2 = \left(\frac{5}{3} - \frac{5}{9}t\right)^2 |\vec{u} + \vec{v}|^2 = \left(\frac{5}{3} - \frac{5}{9}t\right)^2 \left(1 + 2 \times \frac{4}{5} + 1\right) = \frac{10}{9}(3-t)^2$$

すると、 $t < 3$  なので、 $OI = \frac{\sqrt{3}}{10}(3-t)$  となる。

これより、円  $O$  と内接円  $I$  が共有点をもたない条件は、

$$\frac{\sqrt{10}}{3}(3-t) > \frac{t}{3} + 1, (\sqrt{10} + 1)t < 3\sqrt{10} - 3, t < \frac{3(\sqrt{10} - 1)}{\sqrt{10} + 1} = \frac{11 - 2\sqrt{10}}{3}$$

よって、 $t > 0$  と合わせて、 $0 < t < \frac{11 - 2\sqrt{10}}{3}$  である。



### [解説]

丁寧な誘導のついた平面ベクトルの問題です。ただ、(3)はあまりにも有名なので、誘導とは異なる解法になっています。

2

問題のページへ

(1)  $na_{n+1} - (n+1)a_n = 1$  より,  $\frac{a_{n+1}}{n+1} - \frac{a_n}{n} = \frac{1}{n(n+1)}$  となり,  $b_n = \frac{a_n}{n}$  とおくと,

$$b_1 = \frac{a_1}{1} = 1, \quad b_{n+1} - b_n = \frac{1}{n(n+1)}$$

$$n \geq 2 \text{ のとき, } b_n = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{k(k+1)} = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) = 1 + 1 - \frac{1}{n} = 2 - \frac{1}{n}$$

よって,  $a_n = nb_n = 2n - 1$  となる。なお, この式は,  $n = 1$  でも成立している。

(2)  $x \neq 1$  のとき,  $\sum_{k=0}^{n-1} x^k = \frac{x^n - 1}{x - 1}$  の両辺を  $x$  で微分すると,

$$\sum_{k=1}^{n-1} kx^{k-1} = \frac{nx^{n-1}(x-1) - (x^n - 1)}{(x-1)^2} = \frac{(n-1)x^n - nx^{n-1} + 1}{(x-1)^2}$$

$$\text{両辺に } x \text{ をかけると, } \sum_{k=1}^{n-1} kx^k = \frac{(n-1)x^{n+1} - nx^n + x}{(x-1)^2}$$

(3)  $\frac{pc_{n+1}}{n} - \frac{c_n}{n+1} = \frac{1}{n+1}$  より,  $p(n+1)c_{n+1} - nc_n = n$  となり,  $d_n = nc_n$  とおくと,

$$pd_{n+1} - d_n = n, \quad p^{n+1}d_{n+1} - p^n d_n = np^n$$

さらに,  $e_n = p^n d_n$  とおくと,  $e_1 = p^1 d_1 = p \cdot 1 \cdot c_1 = 0$  で,

$$e_{n+1} - e_n = np^n$$

$$n \geq 2 \text{ のとき, } e_n = 0 + \sum_{k=1}^{n-1} kp^k = \frac{(n-1)p^{n+1} - np^n + p}{(p-1)^2}$$

なお, この式は  $n = 1$  のときも成立している。

(i)  $p \neq 0$  のとき

$$c_n = \frac{d_n}{n} = \frac{e_n}{np^n} = \frac{(n-1)p^{n+1} - np^n + p}{np^n(p-1)^2} = \frac{(n-1)p^n - np^{n-1} + 1}{np^{n-1}(p-1)^2}$$

(ii)  $p = 0$  のとき

$$-\frac{c_n}{n+1} = \frac{1}{n+1} \text{ より, } c_n = -1 \text{ となるが, } c_1 = 0 \text{ に反する。}$$

(i)(ii)より,  $p \neq 0, p \neq 1$  のとき,  $c_n = \frac{(n-1)p^n - np^{n-1} + 1}{np^{n-1}(p-1)^2}$  である。

### [解説]

(3)の数列  $\{d_n\}$  についての漸化式は, 解法がいろいろありますが, (2)の結論を誘導と考えると, 上に記した解答例になるでしょう。

3

問題のページへ

(1) まず,  $C_1: x^2 + y^2 - 2\sqrt{3}x - 4y + 3 = 0$  に対して,  $y = 0$  とすると,

$$x^2 - 2\sqrt{3}x + 3 = 0, (x - \sqrt{3})^2 = 0, x = \sqrt{3}$$

また,  $x = 0$  とすると,  $y^2 - 4y + 3 = 0, y = 1, 3$  となり,  $C_1$  と座標軸の共有点は,

$$(\sqrt{3}, 0), (0, 1), (0, 3)$$

$C_2: y = -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2\sqrt{3}}x + 1 \cdots \cdots (*)$  に対して,  $y = 0$  とすると,

$$\sqrt{3}x^2 - x - 2\sqrt{3} = 0, (\sqrt{3}x + 2)(x - \sqrt{3}) = 0, x = -\frac{2}{\sqrt{3}}, \sqrt{3}$$

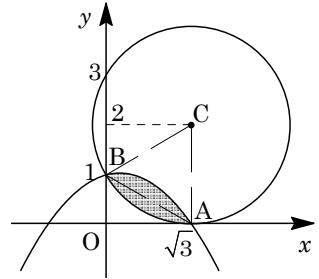
また,  $x = 0$  とすると,  $y = 1$  となり,  $C_2$  と座標軸の共有点は,

$$\left(-\frac{2}{\sqrt{3}}, 0\right), (\sqrt{3}, 0), (0, 1)$$

(2)  $x^2 + y^2 - 2\sqrt{3}x - 4y + 3 \leq 0, y \leq -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2\sqrt{3}}x + 1$  の

表す領域  $D$  は, 右図の網点部となる。

そこで,  $C_1$  と  $C_2$  の共有点を  $A(\sqrt{3}, 0), B(0, 1)$ , また  $C_1$  の中心を  $C(\sqrt{3}, 2)$  とおく。さらに, 領域  $D$  の線分  $AB$  の下側の部分の面積を  $S_1$ , 上側の部分の面積を  $S_2$  とする。



さて,  $CA = CB = AB = 2$  から,  $\triangle ABC$  は正三角形となり,  $\angle ACB = \frac{\pi}{3}$  より,

$$S_1 = \frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \frac{\pi}{3} - \frac{1}{2} \cdot 2^2 \sin \frac{\pi}{3} = \frac{2}{3}\pi - \sqrt{3}$$

また, 直線  $AB: y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x + 1$  であるので,

$$\begin{aligned} S_2 &= \int_0^{\sqrt{3}} \left(-\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2\sqrt{3}}x + 1 + \frac{1}{\sqrt{3}}x - 1\right) dx = \int_0^{\sqrt{3}} \left(-\frac{1}{2}x^2 + \frac{\sqrt{3}}{2}x\right) dx \\ &= -\frac{1}{2} \int_0^{\sqrt{3}} x(x - \sqrt{3}) dx = -\frac{1}{2} \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) \cdot (\sqrt{3})^3 = \frac{\sqrt{3}}{4} \end{aligned}$$

すると, 領域  $D$  の面積  $S$  は,

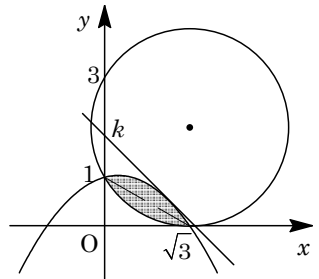
$$S = S_1 + S_2 = \frac{2}{3}\pi - \sqrt{3} + \frac{\sqrt{3}}{4} = \frac{2}{3}\pi - \frac{3\sqrt{3}}{4}$$

(3)  $x + y = k$  とおくと, 右図から, 直線  $y = -x + k$  が  $C_2$  に接するとき  $k$  は最大値をとる。

さて,  $(*)$  より,  $y' = -x + \frac{1}{2\sqrt{3}}$  となり,  $y' = -1$  から,

$$-x + \frac{1}{2\sqrt{3}} = -1, x = \frac{1}{2\sqrt{3}} + 1 = \frac{\sqrt{3}}{6} + 1$$

$(*)$  を  $y = -\frac{1}{2}x\left(x - \frac{\sqrt{3}}{3}\right) + 1$  と変形して代入すると,



$$y = -\frac{1}{2}\left(\frac{\sqrt{3}}{6} + 1\right)\left(-\frac{\sqrt{3}}{6} + 1\right) + 1 = -\frac{1}{2}\left(-\frac{1}{12} + 1\right) + 1 = \frac{13}{24}$$

よって、 $x + y$  は  $(x, y) = \left(\frac{\sqrt{3}}{6} + 1, \frac{13}{24}\right)$  において最大となり、その最大値は、

$$\frac{\sqrt{3}}{6} + 1 + \frac{13}{24} = \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{37}{24}$$

### [解説]

内容は基本的ですが、計算量のある問題です。特に(3)では、図を雑にかくと調べる  
ことが増えてきます。



4

問題のページへ

(1)  $y = \log x$  に対して  $y' = \frac{1}{x}$  となり, 点  $A_k'(k, \log k)$  に

おける接線  $l_k$  の方程式は,

$$y - \log k = \frac{1}{k}(x - k), \quad y = \frac{1}{k}x - 1 + \log k$$

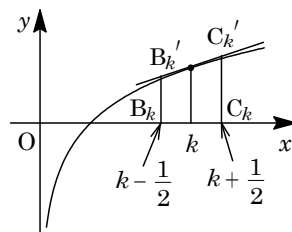
$x = k \pm \frac{1}{2}$  のとき, 複号同順で

$$y = \frac{1}{k}\left(k \pm \frac{1}{2}\right) - 1 + \log k = \pm \frac{1}{2k} + \log k$$

よって,  $B_k'\left(k - \frac{1}{2}, -\frac{1}{2k} + \log k\right)$ ,  $C_k'\left(k + \frac{1}{2}, \frac{1}{2k} + \log k\right)$  となる。

以上より, 四角形  $B_k C_k C_k' B_k'$  の面積  $S_k$  は,

$$S_k = \frac{1}{2}\left(-\frac{1}{2k} + \log k + \frac{1}{2k} + \log k\right) \times 1 = \log k$$



(2)  $k \geq 2$  のとき,  $S_k > \int_{k-\frac{1}{2}}^{k+\frac{1}{2}} \log x dx$  なので, (1)より,  $\log k > \int_{k-\frac{1}{2}}^{k+\frac{1}{2}} \log x dx \dots\dots\dots ①$

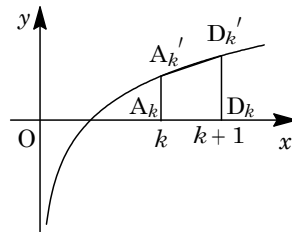
$k \geq 1$  のとき,  $D_k(k+1, 0)$ ,  $D_k'(k+1, \log(k+1))$  と

おくと, 四角形  $A_k D_k D_k' A_k'$  の面積は,

$$\frac{1}{2}\{\log k + \log(k+1)\} \times 1 = \frac{\log k + \log(k+1)}{2}$$

さて, 曲線  $y = \log x$  は上に凸であるので,

$$\frac{\log k + \log(k+1)}{2} < \int_k^{k+1} \log x dx \dots\dots\dots ②$$



(3)  $n \geq 2$  のとき, まず, ①より,  $\sum_{k=2}^n \log k > \sum_{k=2}^n \int_{k-\frac{1}{2}}^{k+\frac{1}{2}} \log x dx$  となり,

$$\log 2 + \log 3 + \dots + \log n = \log(n!) > \int_{\frac{3}{2}}^{n+\frac{1}{2}} \log x dx$$

両辺から  $\frac{1}{2} \log n$  を引いて,

$$a_n = \log(n!) - \frac{1}{2} \log n > \int_{\frac{3}{2}}^n \log x dx + \int_n^{n+\frac{1}{2}} \log x dx - \frac{1}{2} \log n$$

ここで,  $y = \log x$  は増加関数なので,  $\int_n^{n+\frac{1}{2}} \log x dx > \int_n^{n+\frac{1}{2}} \log n dx = \frac{1}{2} \log n$

よって,  $\int_n^{n+\frac{1}{2}} \log x dx - \frac{1}{2} \log n > 0$  から,  $a_n > \int_{\frac{3}{2}}^n \log x dx \dots\dots\dots ③$

また, ②より,  $\sum_{k=1}^{n-1} \frac{\log k + \log(k+1)}{2} < \sum_{k=1}^{n-1} \int_k^{k+1} \log x dx$  となり,

$$\frac{\log 1 + \log 2}{2} + \dots + \frac{\log(n-1) + \log n}{2} = \sum_{k=2}^n \log k - \frac{1}{2} \log n < \int_1^n \log x dx$$

$$\text{よつて, } a_n = \log(n!) - \frac{1}{2} \log n = \sum_{k=2}^n \log k - \frac{1}{2} \log n < \int_1^n \log x dx \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}\textcircled{4} \text{より, } \int_{\frac{3}{2}}^n \log x dx < a_n < \int_1^n \log x dx \dots\dots\dots \textcircled{5}$$

$$(4) \textcircled{5} \text{より, } \int_{\frac{3}{2}}^n \log x dx + \frac{1}{2} \log n < \log(n!) < \int_1^n \log x dx + \frac{1}{2} \log n \text{ となり,}$$

$$\begin{aligned} \int_{\frac{3}{2}}^n \log x dx + \frac{1}{2} \log n &= [x \log x - x]_{\frac{3}{2}}^n + \frac{1}{2} \log n \\ &= n \log n - \frac{3}{2} \log \frac{3}{2} - n + \frac{3}{2} + \frac{1}{2} \log n \\ &= \left(n + \frac{1}{2}\right) \log n - n + \frac{3}{2} \left(1 - \log \frac{3}{2}\right) = U_n \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int_1^n \log x dx + \frac{1}{2} \log n &= [x \log x - x]_1^n + \frac{1}{2} \log n = n \log n - n + 1 + \frac{1}{2} \log n \\ &= \left(n + \frac{1}{2}\right) \log n - n + 1 = V_n \end{aligned}$$

以上より,  $U_n < \log(n!) < V_n$  が成立する。

### [解説]

凸関数の性質を利用した不等式の証明問題です。誘導が非常に丁寧です。